

令和5年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立創徳中学校

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学力向上</p>	<p>1 研修推進グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 公開授業…年間2回(6月・11月)午後公開授業を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市教育委員会より指導主事を招聘し、研究主題に基づいた視点で助言・指導を仰ぐ。 校内プチ公開授業…年間1回以上(各教科で人数と時期を設定)教科で公開授業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会の時間を用いて、各教科において担当者が授業を公開する。 授業公開週間…年間2回(5月・10月)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・参観者は「参観シート」を用いて授業を見学し、授業者は「参観シート」で授業内容を振り返る。 校内研修会の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・研修部会で日程・開催方法を協議し、各分掌部会とも連携を取りながら運営する。 <p>2 学力向上グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科で家庭学習を充実する取り組みを推進し、学習内容の定着を図る。 マイプランニングノートの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科で効果的な活用方法を考え、生徒が見通しをもって学校生活が送れるようにする。 教科部会の運営…週1回実施(音楽、美術、技術、家庭は指定日で開催) <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの作成、定期テストの問題検討、評価基準の設定、教材研究等を協力して行う。 補充学習の実施…定期テスト実施日の前週、夏季休暇に実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や要望に合わせ、学年でより良い方法を協議する。 ICT教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に用いた教育活動について、ICT教育部会と連携して推進する。 <p>3 調査分析グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査、みえスタディチェックの結果分析 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の強み、弱みを分析し、結果を教科部会、学年会で共有し、指導方法の改善に役立てている。 各種アンケートの実施、分析 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者、教師を対象にしたアンケートの実施、分析から、本校の教育活動の改善を促す。 職員会議、校内研修会での分析結果報告 <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果の報告によって教職員間の現状認識を統一し、今後の教育活動に活かす。 <p>【成果と課題】</p> <p>成果:①授業研究、教科部会等で教科指導に力を入れたことで、12月の生徒アンケート結果では「授業づくり」に関する生徒からの肯定的評価が高かった。</p> <p>②研修部の体制を「研修推進」「学力向上」「調査分析」に分けたことで、スムーズに運営できた。</p> <p>課題:①「家庭学習の充実」においては、教科間でばらつきがあり、さらなる具体的な取り組みが必要である。(「学校の宿題をしている」と答えた生徒の割合が、市平均より1.2%低かった)</p> <p>②補充学習だけでは日常的に困り感のある生徒へのきめ細かな対応に限界があるため、定期的に開催できる放課後学習の開催を検討したい。</p> <p>※「学校の先生は、自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」と答えた生徒:96.3%(R5)</p>	<p>・アンケート結果からみれば生徒間、先生方のコミュニケーションは良いので学校の雰囲気は良いのかもしれないと感じます。あとはこれで生徒の学力が本当に上がっているのか先生方にはしっかりと検証して頂きたいと思います。定期テストなどで結果が出ていると思いますので、テスト結果の分析などを協議会で説明して頂くことにより理解が深まると思います。</p> <p>・全体的に評価出来る。※先生は自分たちに分かりやすく授業を工夫してくれると答えた生徒が96.3%については大いに評価できます。</p> <p>・先生方の工夫で授業が活性化したのは理解できるが、成果と言う意味で家庭学習が進まない事は今後の課題だと考えます。</p>	<p>・生徒が主体的に取り組むことができるような家庭学習の課題を吟味する。</p> <p>・教科部会を軸として、「教科の特性に応じた読解力・表現力」の育成のための授業改善にチーム教科で取り組む。</p> <p>・学力向上に資するICTの活用について研究を進め、公開授業などにおける具体的な実践を通して協議を深める。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ICTの活用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 日常的な端末の活用 ICT支援員との連携 研修会の実施 校区のICT担当との連携 <p>【成果と課題】</p> <p>1 日常的な端末の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のパソコンの操作技能が向上したが、生徒間のタイピングの差は依然としてあり、授業が間延びすることがある。週に1回など朝の会の前の時間にタイピングをする時間などをとり、差を埋めていけるとよい。 ・ICTを活用することで、意見交流をスムーズに行う、興味関心を高める、視覚支援を行う、また学校ではできない実験などを見せる など多様な学習方法で学びを深めることができた。 ・授業と授業をつなぐ宿題として、端末を利用して、家庭学習における端末の活用の質を高めている先生もいた。 <p>2 ICT支援員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員の助言により、最新の情報を得たり、授業で使えるサイトを紹介していただくことで、教員のICT活用能力が向上した。また、アンケートの取り方や結果出力方法などを研修することで、ICT活用の幅を広げることができた。 <p>3 研修会の実施 /4 校区のICT担当との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区のICT担当との連携によって、どのような活動にICTを活用しているのかが分かったが、学校にうまく還流できなかった。来年度は、還流する機会をつくれるとよい。 	<p>・今年度研修授業を視察させて頂き、実際どのように使っているのか具体的にを見せて頂きました。まだまだ端末の使用方法は進化していくと思いますが、明らかに我々の中学生時代とは世界が変わっていますので、協議会の委員の方にもっと視察をして頂きたいと思っています。</p> <p>・ICTの活用についてこれは良かった、これは良くなかった等の情報をもっと集めて頂き、できれば学力向上を含めた道具としてできるのか研究が必要であると思います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">不登校</p>		<ol style="list-style-type: none"> 校内組織の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、サポート教室、通級指導教室、保健室、SC(スクールカウンセラー)との連携する。 ・個々の特性に合った別室対応を行う。 ・担任が中心となり、こまめに電話連絡や家庭訪問を行う。 ・希望者にはオンライン授業を行う。 外部機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市適応指導教室(けやき教室、さつき教室)、鈴鹿市子ども家庭支援課、医療機関、児童相談所との連携を図り、必要な支援を得る。 ・校区の不登校対策会議にて小学校との情報交換を行い、連携を進める。 <p>【成果と課題】</p> <p>1 校内組織の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年、サポート教室、通級指導教室、保健室、SC(スクールカウンセラー)、けやき教室等と情報共有を行いながら連携するとともに、教職員間での「報・連・相」を迅速に行うことで、生徒たち一人ひとりを大切にしたい教育実践を行うことができた。 ・担任や学年の先生、サポート教室担当などがこまめに電話連絡や家庭訪問を行い、生徒や保護者と会話をし、現状把握や継続した支援に取り組むように努めていた。 ・毎週開催している教育相談部会(不登校生徒への対応)、特別支援教育部会(個別の支援が必要となる生徒への対応)において、生徒一人ひとりについての情報共有や対応方法の検討などが迅速に行われ、教師間で連携を取り合うことができていた。 ・きめ細やかに個々に応じた不登校支援を行うためには、人材の確保が大切であるが、なかなか難しく、教職員への負担が増えてしまっている。先生方の努力で何とか成り立っている現状がある。 ・家庭訪問シートでの情報共有や生徒の現状把握に役立てられることができた。しかし家庭訪問シートへの記録が、徹底できていないときもあった。 <p>2 外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市教委の先生に教育相談部会に出席していただき、専門的な意見を聞くことができ、生徒とのかかわり方や具体的な取り組み方法を担任や学年の先生の手立てになっていた。 ・校区の不登校対策会議で、各小学校との情報共有、具体的な支援方法などの意見交流を行った。 <p>※「クラスでは、安心して学ぶことができる」と答えた生徒 95.4%(R5)</p>	<p>・今年度は通級指導教室担当の先生に詳しく説明して頂き、委員の皆さんには学校の実態が良く理解できたのではないかと思います。不登校の人数の増減は先生方には気になる場所ですが、協議会においては具体的などのような対応を実際に行い、その結果どうこうという経緯などの説明を今後ともして頂くことにより理解が深まると思います。</p> <p>・考えられるハード面の対策は講じられていると思います。問題はソフト面として、不登校の原因をしっかりと把握することで、生徒の病や精神面は、専門家の助言や教師が理解を深めること、また問題生徒の見えない層については、教師全体で対応することが必要だと考えます。</p>

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
地域連携	<p>1 学校だよりの発行</p> <p>2 学校ホームページの更新</p> <p>3 近隣校との連携(交流授業、授業参観)</p> <p>4 学校運営協議会での熟識と具体的取組の実施</p> <p>【成果と課題】</p> <p>1 年間19回の学校だよりの発行をすることができた。</p> <p>2 学校ホームページの定期的に更新し、学校生活の様子を積極的に発信した。</p> <p>3 近隣校と連携(小学校での出前授業、飯野高校授業参観、NOメディア週間の実施)することができた。</p> <p>4 学校運営協議会で熟識されたことは、職員で共有し学校経営の改善に努めた。</p> <p>※「学校は、通信、ホームページ、メール配信などで、情報を家庭へ積極的に提供している」と答えた保護者 90.8%(R5)</p>	<p>・学校だよりやホームページ、学校運営協議会での議論、十分出来ていると思います。</p> <p>・地域の中にある中学校です。地域の企業の皆様からもちょう講義を受けてはいいかでしょうか。</p> <p>・「学校だより」に学校長の教育観がしっかりと述べられていることが素晴らしいと思います。</p>	<p>・ホームページの定期的な更新、学校だよりの地域への回覧等を通して学校の情報を公開し、引続き地域に開かれた学校づくりに努めていきたい。</p>
特別支援教育	<p>1 特別な支援を有する生徒の理解と支援の充実</p> <p>・学年会議及び職員会議、特別支援教育相談部会等で情報を共有する。</p> <p>・支援方法を検討し、必要に応じてケース会議を行う。</p> <p>・支援ファイルの作成、定期的な見直し等、情報整理をする。</p> <p>2 特別な支援を有する生徒理解のための研修の実施</p> <p>・校内研修及び職員会議で、外部講師を招聘し、教職員で学習会を行ったり、個々の実践事例を挙げ、協議することにより、特別な支援を有する生徒を理解するための研修を行う。</p> <p>・校外での研修へ積極的に参加し、内容の還元にも努める。</p> <p>3 外部機関(医療機関・児童相談所・警察)との連携、協働</p> <p>・医療機関と専門的な見立てや正確な情報を共有し、「教育の立場」から生徒指導や支援方法の改善に努める。</p> <p>・児童相談所や警察と「日々の連携」「緊急時の連携」の2つを意識し、「日々の連携」から問題行動の減少や学校・家庭・地域の教育力の向上を目指していく。また問題行動等が起こった時に、円滑で適切な「緊急時の連携」ができるようにする。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>1 特別な支援を有する生徒の理解と支援の充実</p> <p>全ての生徒に対して、担任を中心に学年担当、支援学級担当、養護教諭、通級指導教室担当、その他の職員がそれぞれの立場を生かしながら関わることができた。教職員全体であいさつや声かけなどを意識し、学校全体で生徒一人ひとりを見守る雰囲気がある。様々な場面で情報共有を密に行い、部会では生徒の情報交換、支援方法を検討し、対応することができた。また支援ファイルを活用し、学期ごとに支援の見直しと保護者への共有を行い、学校の支援に対して理解を得る機会を設けた。一方で、悩みや困り感を抱える生徒の中には「内に向けた問題行動」で自分を表し、徐々に危険な心理状態に陥る生徒もいる。隠れたSOSのサインを早期に発見し、迅速に対応するための手立てを考える必要がある。</p> <p>2 特別な支援を有する生徒理解のための研修の実施</p> <p>校内研修及び職員会議で、外部講師を招聘し、LGBTQについての校内研修を行った。またより良い支援を実施するためにWISC検査の理解*というテーマで回数に分けて、職員会議内で研修を行った。他にも校外研修の内容を還元し、教職員全体の特別支援教育の理解を深めることができた。</p> <p>*ウェクスラー式知能検査の一つ。全般的な知的能力、個々の認知領域における能力を数値化した結果が見られる検査。</p> <p>3 外部機関(医療機関・児童相談所・警察)との連携、協働</p> <p>医療機関へ保護者の同意のもと、同行受診をし、学校の様子を伝え、専門的な見地から助言をいただき、教育の立場で生徒への関わりや支援に生かすことができた。また児童相談所や子ども家庭支援課などの外部機関と情報交換を密に行い、緊急時において速やかに最善の対応ができるように準備した。</p> <p>※「困ったことがあれば、学校の先生に相談できる」と答えた生徒…86.3%(R5) 全体《 R5 86.3% R4 81.3% R3 78.8% 》</p>	<p>・「困ったことがあれば、学校の先生に相談できる生徒の割合が高いことは学校の努力の成果だと思います。」</p> <p>・特別な支援が必要な生徒は、自ら声を出さないかもしません。経験がないため、明確な方針は示せませんが、専門家の協力を得ながら教師間の報連相をしっかりと、かつ個別的に気長に対応するしかないと思います。今の取り組みを着実に実施してください。</p> <p>・先生方には様々な具体的な手立てで活動して頂いており、大変ご苦労して頂いている様子が良くうかがえます。協議会として何のお役に立ってないと思いますが、せめてご苦労の実態をお聞きして情報共有させて頂ければと思います。</p> <p>・ニーズの高まりを受け、マンパワーも整備されて来たが、専門性の高い人材を確保して先生自身のレベルUPも目指して欲しいと思います。</p>	<p>・生徒の置かれた状況、背景を考えながら生徒の困り感に気づき、情報を集め、早い段階で確かな具体的な支援をしていく必要がある。</p> <p>・担任一人が抱え込むのではなく、複数での確実な支援をしていく必要がある。</p> <p>・他の分掌と丁寧に関わり続ける継続した支援が必要である。日常の関わりの中で、教師が安定した大人のモデルとして、安心感を与え続けたい存在となっていきたいと考える。</p>
生徒指導	<p>1 生活規律と授業規律を重視し、安全安心に学校生活を送れる生徒指導の推進</p> <p>・職員間での定期的な情報交換と学校で統一した指導の徹底。特別支援の視点を意識した生徒対応を行う。</p> <p>・生徒会、室長会、各委員会と連携した朝の挨拶運動や交通安全運動など教師・生徒が連携した取組を進める。</p> <p>・交通委員会と連携した「おはよう、おかえりパトロール」を定期的な実施とする。</p> <p>・5分前入室・2分前着席の定着を徹底する。</p> <p>・SNSトラブルを防ぐため、道徳や学活等で情報モラル教育を行う。</p> <p>2 保護者・地域・関係機関との連携強化</p> <p>・ハンター等大型ショッピングセンターやゲームセンターへテスト期間等に巡回指導を行う。</p> <p>・地区補導での情報交換を密に行う。</p> <p>・小中で連携した生活指導、生徒指導の流れを共有する。</p> <p>・鈴鹿警察署、平田交番など地域警察所と情報を共有するとともに、連携を強化する。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>1 生活規律と授業規律を重視し、安全安心に学校生活を送れる生徒指導の推進</p> <p>・職員間で情報交換を密に取り、学年の枠を超えて学校全体で指導に取り組むことができた。</p> <p>・教師が兼前に廊下に立ったり、5分前入室2分前着席を意識させることによって、生活規律と授業規律の定着に繋がった。しかし、着席の徹底はできていないため、室長会や生活委員を中心に呼びかけたり、教師の巡回を強化していく必要がある。</p> <p>・いじめ防止やトラブル防止の視点を持って生徒に接することで、トラブルを未然に防止したり、早急に解決することに繋がった。</p> <p>・各学年で情報モラル教育や生命の安全教育等を行うことができた。</p> <p>2 保護者・地域・関係機関との連携強化</p> <p>・警察、児童相談所、医療機関等の外部の機関と連携し、問題解決にあたることができた。今後もさらに密に連携を取っていきたい。</p> <p>・地域の方や小学校との情報交換、生活指導の交流、危険個所の確認を行い、共通認識を深めることができた。</p> <p>※「クラスでは安心して学ぶことができる」と答えた生徒95.4%(R5)</p>	<p>・協議会で学校の実態に即して具体的事例等を説明して頂き理解を深めるべきだと思います。</p> <p>・授業外の夜間や休日の問題行動については、地域や関係機関と連携して対応することとし、多忙な教師は学校内の役割に徹するべきだと思います。</p> <p>・生徒と教師の関係づくり・けじめを大事にして欲しい。教科をわかりやすく、また学校が楽しくなるように工夫すること、教師と生徒の関係について、けじめをつけることは別次元の視点だと考えます。生徒は見えています。本当に自分のことに関心を持っているか、相談しても真剣に自分のこととして受け止めてくれるかです。問題行動を起こして教師を試しているのです。教師の人間力が問われています。多忙な中だとは思いますが、是非ともよろしくお願ひします。</p>	<p>・生徒一人一人の規範意識を高めていくため、些細な出来事にもきちんと対応し、日ごろから教師が危機意識を持つことや同じ方向性で指導できるように情報交換や意見交換を行っていく。</p> <p>・SNSトラブルが毎年起きるので、学活・道徳・総合の時間や学級での時間、講演会等でスマホやクロームブックの使い方についての指導を徹底していきたい。また、いじめやトラブルにならないように教師のアンテナを高くしていく必要がある。</p>